

まとめ

非がん性慢性[疼]痛に対するオピオイド処方が開始され、痛みに悩まされている多くの患者には福音をもたらす可能性がある。しかし、本邦では、本ガイドラインで述べてきたように、未経験の様々な問題に直面する可能性もまた高い。日本ペインクリニック学会では「非がん性慢性[疼]痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン」について、ワーキンググループの活動を今後も継続し、国内外の非がん性慢性[疼]痛に対するオピオイド治療の情報収集活動を積極的に行い、他学会や有識者の意見を傾聴し、さらなる議論を続けることで、本邦に適したガイドラインに近づけるために改訂を重ねていく。

現時点では、多くの医師が非がん性慢性[疼]痛に対するオピオイド治療の経験が浅く、その処方慎重に行わなければならない。最後に、図7に現時点での非がん性慢性[疼]痛に対するオピオイド鎮痛薬処方の理想像をまとめた。

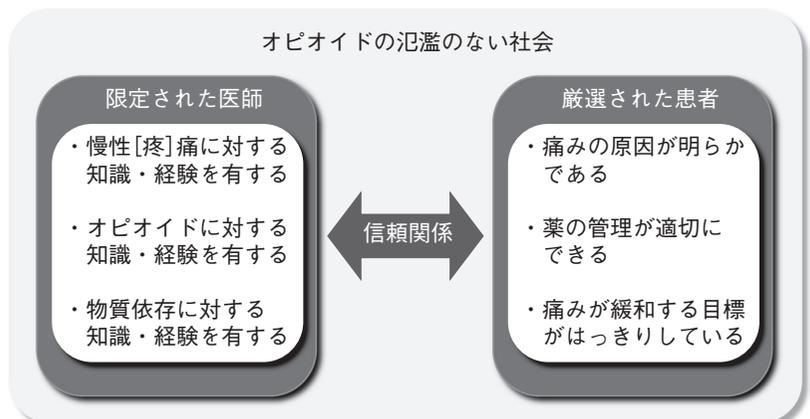


図7 現時点での非がん性慢性[疼]痛に対するオピオイド処方の理想像